

内視鏡外科

内視鏡手術の特色

内視鏡手術とは、5ミリ～2センチくらいの小さな創部から腹腔鏡や胸腔鏡などと言われている内視鏡や手術に必要な器具を体内に挿入して、テレビモニターに写し出された体の中の様子を見ながら行う手術です。

小さな創から行う手術なので、体にやさしく、そのため術後疼痛は少なく、早期退院、早期社会復帰が可能です。手術成績も開腹術と変わらない成績が報告されています。

しかしながら、内視鏡手術は大変な努力を要します。平面的な映像を見ながら手術するという点、臓器を直接手でさわれないという点、また、糸を結ぶといったような複雑な操作は内視鏡器具では熟練を要します。毎日の修練と経験の積み重ねにより、困難を克服し皆様に安心して手術受けていただけるように心がけています。

現在行っている内視鏡手術

胆嚢摘出術	胆石、胆嚢ポリープなど
結腸切除術	早期大腸がん、炎症性腸疾患 など
胃切除術	早期胃がん、胃粘膜下腫瘍 など
虫垂切除術	虫垂炎
癒着剥離術	腸閉塞など
副腎摘出術	副腎腫瘍
肺切除術	自然気胸、肺癌など

胸膜生検や膿胸に対しても内視鏡下に手術をしています。

その他にも、胃食道逆流性症(GERD)に対する逆流防止手術、消化性潰瘍穿孔に対する手術、など積極的に行っていきたいと考えています。

外来日：月曜日から金曜日まで毎日 受付時間：午前8:00 から 11:00

疑問、質問のある方は、遠慮なく担当医師にお尋ねください。